

寒証と祛寒剤

山本巖の医学 《墨墨之火、可以燎原》

薬師寺内科医院
薬師寺 和昭
2025.02.22

寒証とは

- 寒証とは 身体及び身体の一部に自覚的に冷えによる症状や現象を認めるもの
急激な外因によって引き起こされるものではなくて、比較的慢性の経過をとっているもの
- 冷え性は患者さんが訴える症状
冷え症と寒証は異なるもの

寒証の自覚症状

臓器	症状
消化器	嘔吐 腹痛 下痢 など
呼吸器 耳鼻科	くしゃみ 水様鼻水 喘鳴 など
整形	腰痛 筋肉痛 神経痛 など
泌尿器	頻尿 夜間尿 など
婦人	月経遅延 月経困難 不妊症 白色帯下 など
皮膚	凍瘡 など

寒証の身体所見

- 望診
 - 顔色 蒼白で血色がない 皮膚も赤味がない
 - 舌 湿潤傾向。口腔内も湿潤傾向
- 切診
 - 皮膚 触れると冷たい
 - 脈 遅い

寒証の西洋学的病態

- 血管の収縮・筋肉の痙攣
- 動脈の血行障害・疼痛
- 中空臓器の蠕動亢進・痙攣
寒証以外で炎症や気滞で起こることがある。

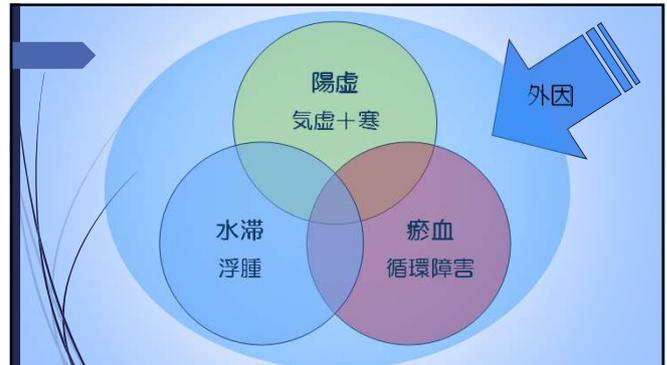
寒証の原因(外因＝寒邪)

- 外気(外部環境)の寒冷作用
 - 呼吸器の寒証(肺中冷、上焦の寒証)
身体外表の寒証(経絡の中寒)
下肢の血液の寒冷(臓腑の寒証←経絡の中寒)
- 飲食物による寒冷作用
 - 内蔵の寒証(臓腑の中寒)

物理的な外因により急激に起こって寒証を「中寒」

寒証を起こしやすい体質(内因)

- 気虚・陽虚（元気がなく冷えやすい）の者は患者に侵されやすい
- 水滯・浮腫など湿の多い者は寒邪に侵されやすい
- 瘀血のある者は寒邪に侵されやすい



寒証と冷え証

- 寒証は寒邪により引き起こされた漢方的病態診断であり、祛寒薬・祛寒剤で治療する病態である。主に、外因で起きるものを寒証とする。寒証は、必ずしも冷えを主訴としてこないことがある。
- 冷え症は自覚症状である。冷えを訴える者は、内因が関係する。この内因を持っている者が、外因を受けて外因の寒証を発生する。
 - 寒証
 - 陽虚型→慢性の虚寒証→急性の外因に寒証（実寒）
 - 湿証型・水滯型
 - 瘀血型
 などがある。漢方的には病態が異なるので用いる方剤が異なる。鑑別する必要がある。

寒証の分類

- 中寒
 - 内臓の中寒（コアの冷え）
 - 経絡の中寒（シエルの冷え）
- 内寒
 - 陽虚

外感病（感染症）の傷寒などは寒証に入れない。
 物理的寒冷による寒証のみを寒証とする。
 内寒（陽虚による寒証）は中寒に入れない。
 内寒+中寒は中寒に入れる。

寒証の診断

- 手足・腹・背中などが冷える・寒い。
- **温めると楽になる、冷えると悪化する。**
- **温かい飲食物を好む。**
- 尿量が多い。色は薄い。
- 大便は頻回・軟便・色は薄い・臭い少ない。
- 唾液・鼻水・薄い痰が多く出る。
- 口渇はない。口中は潤湿している。
- 脈は遅い。

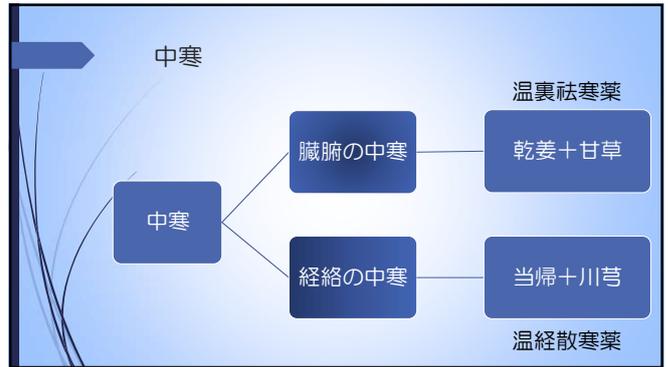
常に患者さんが寒証か熱証かを意識して処方を決めること

臨床に於ける中寒と冷え症

- 患者の自覚症状と他覚症状
- 中寒
 - 自覚的に冷えを訴える
 - 自覚的に冷えを訴えない
- 冷え症
 - 自覚的に冷えを訴える
 - 中寒による。
 - 陽虚による。
 - 湿証
 - 瘀血症

祛寒薬

- **温裏祛寒薬** 主として腹部**内臓**を温める作用のある薬剤
 - 乾姜、附子、肉桂、蜀椒、茴香、呉茱萸、高良姜、丁香など
- **温経散寒薬** 主として**四肢・体表**の血行を促進して臥位表を温める薬物
 - 桂枝、当帰、川芎、細辛、麻黄、附子など



乾姜

- ショウガ科の根茎。ショウガを蒸して乾燥させたもの。
- **腹を温める。腹が冷えて起きる腹痛、下痢、悪心、嘔吐などに用いる。**
 - 腹を温めて下痢を止める。腹を温めて腸蠕動を抑制して下痢をとめる。
 - 腹が冷えて腹痛、下痢（泥状便）する者に用いる。
 - 腹を温めて嘔吐を止める
 - 腹を温めて腹痛を止める
- 胸部を温めて咳を止める。肺が冷えて水鼻や薄い痰が出る時に用いる。
- 生殖器を温める 陽虚に伴う不正性器出血や子宮出血などに用いる
- ショック・虚脱に用いる。

乾姜





効能	組み合わせ	方剂 (保険適用)	方剂
温中祛寒 温脾止瀉 温胃止嘔 虚寒止痛	人參 白朮 甘草 人參 半夏 人參 蜀椒	人參湯 大建中湯	乾姜人參半夏丸
温肺止咳	半夏 細辛 五味子	小青竜湯、 苓甘姜味辛夏仁湯	
回陽救逆	附子 甘草		四逆湯

乾姜と生姜

- 中国漢方で、生姜 → 生もの
 乾姜 → 生姜の根を乾燥させたもの
 煨姜、炮姜 → 蒸して乾燥させたもの
- 日本漢方で、生姜 → 乾燥した生姜
 乾姜 → 蒸して乾燥させたもの

附子

- トリカブトの塊根を熟処理したもの
- **主として四肢などの末梢を温めるが、腹部も温める。**
- **手足の末梢を温め、痛みを止める**
 - 新陳代謝機能の衰退による著しい寒証や、寒冷のため極度に冷えて、四肢の筋肉が痛むとき、または冷えて神経痛や腰痛が認められるときに、新陳代謝を盛んにして熱を産生し、更に血管を拡張し血行をよくして四肢の冷えを温め痛みを止める。
- 強心利尿作用 身体機能が衰弱して水分代謝が低下している者に用いる。
 - うっ血性心不全による浮腫を治す。
 - 冷えて、下痢、腹痛して尿量少ない者や、皮下に水が溜まって浮腫のある者を治す。
- ショック状態に用いる。

附子は強心作用があり、大汗、大出血、大吐瀉、失血などの後の、顔面蒼白、呼吸微弱、脈微弱、血圧低下、冷汗があり、チアノーゼ、四肢厥冷等を呈する、急性循環不全に用いる。

附子



効能	組み合わせ	方剤(保険適用)	方剤
手足の末梢を温め、痛みを止める	桂皮 甘草 白朮	桂枝加朮附湯	
強心利尿作用	茯苓 沢瀉 肉桂 白朮 茯苓	八味丸 真武湯	
回陽救逆	乾姜 甘草		四逆湯

附子の副作用

H2ブロッカーなどを服用すると胃内のpHは上昇しブシ剤や麻黄剤の有効成分であるアルカロイドの吸収を高めるとの報告があります。(昭和薬科大学 田代真一教授)

PPK、H2ブロッカーや重曹など胃酸を中和したり低下する働きを持つ胃薬と八味地黄丸や真武湯などブシ剤あるいは麻黄剤を併用するときはブシ剤や麻黄剤の血中濃度上昇などの副作用に注意が必要です。

ブシ剤の副作用として、口唇や舌のしびれ感や異物感、唾液分泌過剰、皮膚の蟻走感などが現れた場合には使用を中止すべきです。

エキス製剤の附子は、一度修治(オートクレープ処理)後に再度煎じているため、附子の副作用は気にしなくてもよい。附子末を追加処方する場合は、副作用を気にする必要がある。

肉桂 桂皮

- クスノキ科の樹皮
- 祛寒作用 血行を促進し、腹部・四肢・頭部を温めて、陽虚を改善する
 - 皮膚の血行を良くして体を温める作用は強い。
 - 発汗作用は弱いため 熱病で悪寒、発熱、身体痛には麻黄を配して増強する。
 - 難病では血行を良くして、駆瘀血作用を助ける
- 止痛作用 血行をよくし、腹や四肢・頭部を温める。
 - 心窩部痛・・・腹を冷やして痛む者に用いる
 - 月経痛・・・腹が冷えて起こる者に用いる。
 - 胃腸への直接刺激により嗅覚味覚を刺激して、胃腸の運動を亢進し、食欲増進と消化を高める。
 - 胃腸などが寒冷の刺激で痙攣して起きる腹痛を治す。
- 利尿作用を助ける。 小便不利、下肢浮腫に腎臓の血流をよくして利尿作用を強める。

肉桂 桂皮



効能	組み合わせ	方剤(保険適用)	方剤
祛寒作用	麻黄	麻黄湯 葛根湯	
止痛作用	芍薬 良姜 延胡索 小茴香	桂枝芍薬湯 安中散	
行水消腫	茯苓 白朮 沢瀉	五苓散 苓桂朮甘湯 八味丸	

桂枝(桂皮)



効能	組み合わせ	方剤(保険適用)	方剤
発汗解表作用	麻黄	葛根湯・麻黄湯	
鎮痛作用	附子	桂枝加朮附湯	
駆瘀血作用	桃仁 牡丹皮	桂枝茯苓丸	

桂枝の問題点

- 血管拡張作用
 - 出血傾向、増量での頭痛めまいに留意
- 桂枝と桂皮の違い
 - 日本漢方では基本同じものとして使用
- 揮発性
 - 必要に応じて桂皮末を加える
 - エキス剤ではほとんど消えている。

蜀椒 山椒

- ミカン科サンショウの果皮
- 主に**腹部を温め、寒証の腸管の痙攣性疼痛に平滑筋のれん縮を緩和**して鎮痛する。
寒冷刺激による腹痛、嘔吐などに、腹を温めて腸蠕動の亢進を抑制し腹痛を止める。
- 駆虫作用（駆虫消積） 蛔虫を麻痺させ駆虫する作用がある。
- 胃液分泌作用
蜀椒は胃酸の分泌を強める。だから冷えない胃酸の高い人は、飲むとすぐに胸やけがして酸っぱい水が口にあがってくる。膠飴を入れて緩和する。

蜀椒 山椒



効能	組み合わせ	方剤 (保険適用)	方剤
温中止痛	乾姜 人參 膠飴	大建中湯	
駆虫作用		大建中湯	

茴香 小茴香

- セリ科ウイキョウの果実
- 腹を温めて腹痛を治す**
寒冷の飲食物で胃を冷やしたり、冷えによる消化管のれん縮性疼痛を軽減、寒疝により起こる腹痛を治す。
- 消化不良を治す
冷えによる腹部膨満感を消化管内ガス排除によって改善。
- 鎮痙作用、鎮痛作用
寒冷にさらされて腰痛又は坐骨神経痛が発症したときに適用。
- 白帯下に用いる
四肢外表の冷えによる寒湿白帯下に用いる。

茴香 小茴香



効能	組み合わせ	方剤 (保険適用)	方剤
祛寒止痛	桂枝 良姜 延胡索 縮砂	安中散	
理気消腫	生姜 厚朴		
鎮痙 鎮痛作用			枳縮二陳湯
温経止帯			

呉茱萸

- ミカン科のゴシュユの果実
- 腹を温めて嘔吐を止める。**（降逆止嘔）
 - 胃部が冷え、胃内に貯留水があって唾液などを吐く寒証の嘔吐に用いる。また寒証のしゃっくりにも有効。（利水作用）
 - 腹を温めて幽門の痙攣を除き、蠕動を整えて悪心、嘔吐を止める。寒証のゲップ、呑酸
- 腹を温め、頭痛、腹痛を治す。**
手足が冷えたり、冷たい物を食べたりして、胃が冷えて起きる偏頭痛を治す。

呉茱萸

- お腹を温める 乾姜
- 鎮嘔吐作用 半夏
- 痙攣や逆蠕動を抑える 枳実
- 利水作用 茯苓

呉茱萸



効能	組み合わせ	方剤 (保険適用)	方剤
降逆止嘔	人參 生姜 大棗	呉茱萸湯	
腹を温め、頭痛、 腹痛を治す	人參 生姜 大棗 当帰 桂枝 川芎 細辛	呉茱萸湯 当帰四逆加呉茱萸 生姜湯	

高良姜 (良姜)

- 科良姜の根茎
- 腹を温めて腹痛を治す。
- 腹を温めて嘔吐を止める。

高良姜 (良姜)



効能	組み合わせ	方剤 (保険適用)	方剤
温中止痛	桂枝 小茴香 延胡索	安中散	
温胃止嘔			

丁香 (丁子)

- チョウジの開花前の花蕾
- 鎮嘔・鎮痙作用
寒証の嘔吐、腹痛などに適用。寒証の嘔吐、吃逆（しゃっくり）、吐乳等を治す。
- 血液循環促進作用
血管を拡張して、膿血流をよくする。脳動脈硬化症、脳梗塞あるいは老年痴呆などで著しい健忘症状や情動の異常が認められるときに

丁香 (丁子)



効能	組み合わせ	方剤 (保険適用)	方剤
鎮嘔 鎮痙作用	柿蒂 人參 生姜		丁香柿蒂湯
血液循環促進作用	川芎 桂皮 当帰 川芎	治打撲一方 女神散	

当帰

- トウキの根。湯通しし乾燥したもの
- 血行をよくし、主として下半身及び四肢末端に作用し、腹部や四肢、頭部を温める。
- 月経異常に用いる
 - 子宮筋の痙攣や収縮を弛緩させる。また血流をよくして子宮の發育を促す。生理不順、月経痛、閉経等を治す。
 - 血行を良くする作用も子宮に対する作用も複雑で、局所作用だけでなく、上位の神経などに作用し、自律神経や内分泌系を介して作用することもある、と考えられる。
- 疼痛を軽減する。例えば子宮筋あるいは小動脈の痙攣を緩和する。
- 大便を軟らかくする。腸管内に水を貯留。
- 体内の水分不足により筋肉が痙攣するときには、当帰が体内で水分を保ち痙攣を止める。
- 化膿性炎症、潰瘍の治療に用いる。排膿・肉芽増殖促進効果

当帰



効能	組み合わせ	方剤 (保険適用)	方剤
活血作用	桂皮 細辛	当帰芍薬散	
補血調経	川芎 白朮 地黄	四物湯	
散瘀止痛	紅花 蘇木 大黄	通導散	
潤腸通便	桃仁 杏仁 麻子仁 大黄	潤腸湯	
排膿消瘍	黄耆 人參 肉桂		千金内托散

当帰

- 「トウキ（当帰）」は「当に帰る」という意味で、病弱な女性がこれを服用すると元気になった、産後の肥立ちが悪い女性が実家から夫の元へ帰ってくる事ができた、あるいは自分から離れていった夫が戻ってきたなどのいわれがあります。

川芎

- センキュウの根茎
- 主として上半身に作用するが、特に脳循環を増加させる。
- 血管を拡張して血行をよくし痛みを止める
 - 脳や頭部の血流をよくし、頭痛を止める。
 - 四肢の血行をよくし、血行障害による四肢のしびれ、麻痺、疼痛に用いる。
 - 冠血管拡張 狭心症の痛み
- 瘀血による月経障害を治す無月経、稀発月経に用いる
 - 難産、後産、産後の出血等に用いる(産後の子宮の収縮をよくする)
- 精神的ストレスによる胸脇部の痛みに用いる
- 排膿効果→膿の形成と軟化を促進。化膿症、潰瘍の治療を促進する
- 禁忌 月経過多 嘔吐や吃逆・呼吸困難・喘鳴の者・熱気が強い者・嗜血する者
 - 大量に使用すると嘔吐めまいを起こしやすいとする。

川芎



効能	組み合わせ	方剤 (保険適用)	方剤
祛風止痛	細辛 羌活 防風 白芷 防風 防己 威靈仙 羌活 蒼朮 丹参 赤芍	川芎茶調散 疎経活血湯	冠心II号
活血調経	当帰 芍薬 地黄 赤芍 桃仁 紅花 牡丹皮	四物湯 芍帰調血飲	
行気解鬱	柴胡 白芍 枳殼 紅花 桃仁		疎肝湯
排膿効果	当帰 桂枝 黄耆 白芷		千金内托散

細辛

- サイシンの根および根茎
- 発汗解表作用
 - 風寒による比較的表在性の寒を温める。 くしゃみ、鼻水、咽痛等で始まるカゼ
 - 陣虚の体質の外感病（少陰病）に用いる（発汗解表作用）
- 抗アレルギー作用がある。 アレルギー性鼻炎、寒冷蕁麻疹
- 鎮痛作用（祛風湿作用）
 - 風寒による痛みを治す。 精油には局所麻酔作用があり、寒冷刺激による比較的表在性の痛みを治す。 例えは頭痛、舌痛、神経痛、歯痛、咽喉痛、関節痛などに。
 - 揮発性の中に中枢性末梢性の麻酔作用。（中国では3%の注射薬で局所浸潤麻酔に）
- 鎮咳・去痰作用 肺が冷えて痰が多く（大量の希薄な痰）、咳が出るものを治す。
 - 細辛は温める作用と利水作用があり、寒湿痰を治す。
 - くしゃみ、水様性鼻漏、多量の泡沫状痰を伴う寒証の咳嗽に適用。
- 手足の冷えを温める作用 冷え症を治す。

細辛



効能	組み合わせ	方剤 (保険適用)	方剤
発汗解表作用		麻黄附子細辛湯	
抗アレルギー作用	附子	麻黄附子細辛湯 小青竜湯	
鎮痛作用	川芎 白芷 防風 升麻 麻黄 附子	川芎茶調散 立効散 麻黄附子細辛湯	定痛散 三痹湯
鎮咳・去痰作用	乾姜 五味子	小青竜湯 苓甘姜味辛仁湯	
去寒作用	桂皮 当帰	当帰四逆加呉茱萸生姜湯	

麻黄

- クサマオウの莖
- 発汗解表作用 桂枝と合わせると発汗作用が強くなる。
- 利水作用
 - 利水作用によって体の過剰な水分を除去作用がある。
麻黄-石膏で消炎利水作用があり、滲出性炎症による水腫を治す。
- 気管支拡張作用
気管支平滑筋の痙攣に対して気管支を拡張するエフェドリン類似作用がある。
気管支喘息や痙攣性の咳に用いられる。甘草などと併用
 - 世界で初めて喘咳に麻黄が効くといったのは吉益東洞。
- 湿疹の治療の補助として 荊芥・蟬退・薄荷など

麻黄



効能	組み合わせ	方剂（保険適用）	方剂
発汗解表作用	桂皮	葛根湯・麻黄湯	
利水・消腫作用	石膏	越婢加朮湯・薏苡仁湯 麻杏甘石湯	
鎮咳・鎮線作用	杏仁 甘草	麻杏甘石湯・五虎湯	

麻黄の問題点

- 発汗作用があるため、汗の出やすい人や暑い時期に用いると発汗過多を起こすことがある。
- エフェドリン等興奮性の物質を含むため、心悸亢進、不眠等を起こすことがある、ときに排尿困難。
- 胃を障害して食欲をなくすことがある。
- 排尿困難・淋瀝を来すことがある。

甘草乾姜湯

- 金匱要略
「肺痿、涎沫をとして、欬せざる者は、其の人渴せず、必ず遺尿し、小便数なり、然る所以の者は、（上虚して下制すること能わざるを以っての故なり）此れ肺中冷を為す。必ず眩して涎唾多し、甘草乾姜湯を以って之を温む。・・・」

人參湯

- 組成 人參 乾姜 白朮 甘草
- 方意 臟腑の中寒の基本方剂。脾胃を温める方剂。理中湯ともいう
 - 乾姜 甘草 腹部内臓の寒による腸の蠕動亢進を治す。
 - 人參 甘草 腹痛の抑制
 - 白朮 利水作用により、下痢や胃内停水を改善
 - 人參 白朮 甘草 消化管機能促進 食欲増進 体力増進効果（補氣作用）

真武湯

- 組成 茯苓 白朮 附子 生姜 芍薬
- 方意 寒と湿を除く温陽利水の代表薬
 - 茯苓 白朮 生姜 皮下や腸管の水を血中に引き下痢、浮腫を治す
 - 附子 生姜 強心利尿、温裏作用
 - 白朮 附子 温めて利水、鎮痛
 - 芍薬 筋肉の痙攣痛や下痢による腹痛

人參湯と真武湯の違い

- 寒証による下痢
 - 1) 人參湯（自利不渴）・・・祛寒剤
 - 2) 真武湯（尿不利不渴）・・・利水剤
- 人參湯と真武湯の慢性下痢の鑑別
小便不利と小便自利を参考にする。
- 冷えたときに、小便に何度も行くかどうか？
小便の回数が多ければ・・・人參湯
小便が回数が少なければ・・・真武湯

小青竜湯

- 組成 **麻黄** 桂枝 芍薬 半夏 五味子 **細辛** **乾姜** 甘草
- 方意
 - 麻黄 発汗、利尿、気管支痙攣を緩める(平喘・鎮咳)
 - 半夏 鎮咳、鎮嘔
 - 麻黄 桂枝 細辛 発汗解表。
 - 麻黄 芍薬 甘草 気管支痙攣を緩める(平喘・鎮咳)
 - 麻黄 細辛 利水
 - 半夏 五味子 鎮咳
 - 乾姜** **細辛** 肺中冷を温める。

苓甘姜味辛夏仁湯

- 甘草乾姜湯
- 半夏・**細辛**・五味子・杏仁・茯苓
(**小青竜湯**去**麻黄**・桂枝加杏仁・茯苓)

金匱要略（痰飲咳嗽病）

「其証応内麻黄、以其人遂痺、故不内之。若逆而内之者、必厥。」

呉茱萸湯

- 組成 **呉茱萸**・人參・大棗・生姜
- 方意
 - 呉茱萸 温裏作用 制吐作用
利水作用 理気作用
 - 人參 心下痞 心窩部痛の抑制
 - 大棗 生姜 健胃作用

大建中湯

- 組成 **蜀椒** **乾姜** 人參 膠飴
- 方意
 - 人參 上腹部、胸痛を止め、心下痞硬を治す
 - 蜀椒 乾姜 腹を温め、腸管の痙攣、蠕動亢進を抑制
 - 膠飴 蜀椒の刺激を抑え、胃液の分泌亢進を抑制

安中散

- 組成 **桂枝** 延胡索 **良姜** 縮砂 **茴香** 甘草 牡蛎
- 方意
 - 高良姜 鎮痛作用・鎮嘔作用
 - 延胡索 鎮痛作用
 - 小茴香 鎮痛作用
 - 縮砂 鎮痛作用・鎮嘔作用

苓姜朮甘湯

- 組成 茯苓 乾姜 白朮 甘草
- 甘草乾姜湯に茯苓・白朮を加えたもの
 - 人參湯の人參を茯苓に置き換えている
- 茯苓・白朮 利水作用 健胃作用
- 乾姜・甘草 温裏作用 腰や腹を温める。

当帰四逆加呉茱萸生姜湯

- 組成 当帰 桂枝 細辛 木通 芍薬 呉茱萸 生姜 甘草 大棗
- 当帰・桂枝・細辛・・・温経散寒
- 芍薬・甘草・・・筋肉の痙攣による痛みをとる。
- 木通・・・利水作用
- 呉茱萸・生姜・・・温裏散寒 制吐作用
- 当帰・芍薬・・・駆瘀血作用（しかし弱い）

当帰芍薬散

- 組成 当帰 芍薬 川芎 白朮 茯苓 沢瀉
- 四物湯から地黄を除き、利水を加えたもの
- 当帰・芍薬・甘草・・・子宮の痙攣の鎮痙鎮痛
- 当帰・川芎・・・温経作用、体表の血行をよくする。
- 白朮・茯苓・沢瀉・・・利水作用

五積散

- 薬味が多味で非常に多くの処方を含んでいる。
- 気・血・痰・寒・食の五積を散する
- 組成 蒼朮・厚朴・陳皮・半夏・茯苓・甘草・当帰・川芎・芍薬・桂枝・麻黄・白芷・乾姜・生姜・大棗・桔梗・枳殼

平胃散	蒼朮・厚朴・陳皮
二陳湯	茯苓・陳皮・半夏・朮・甘草
四物湯去地黄	当帰・川芎・芍薬
当帰芍薬散去沢瀉	当帰・川芎・芍薬・茯苓・朮
苓桂朮甘湯	茯苓・朮・桂枝・甘草
苓姜朮甘湯	茯苓・乾姜・朮・甘草
発汗解表劑	桂枝湯加麻黄・白芷

五積散

- 経絡の中寒
 -寒と湿の合併
 - 当帰・川芎・桂枝・麻黄・附子・・・血行をよくする。
 - 蒼朮・茯苓・・・祛湿
- 臓腑の中寒
 -寒と湿の合併
 - 乾姜・肉桂・呉茱萸・・・温裏
 - 半夏・生姜・陳皮・茯苓・・・嘔吐
 - 芍薬・厚朴・肉桂・甘草・・・腹痛
 - 蒼朮・茯苓・・・止瀉
- 感冒
 - 桂枝湯加白芷・麻黄・・・発汗解表
 - 半夏・陳皮・桔梗・枳殼・・・鎮咳・祛痰
 - 陳皮・枳殼・半夏・生姜・厚朴・・・理気（健胃）
 - 乾姜・肉桂・・・温裏
 - 蒼朮・茯苓・・・止瀉
- 難産・催生薬
- 胃腸薬